

入学式 式辞

ようやく春が訪れ、新たな生命の息吹を感じる季節となりました。
本日、ここに令和七年度入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

新入生のみなさん。ご入学、おめでとうございます。

全教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、これまでみなさんを支え成長を見守ってこられたご家族のみなさまにも、衷心よりお慶びを申し上げます。

ご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、ご臨席を賜り、式に華を添えていただきますことに、厚くお礼申し上げます。

ただいま、大学院一〇名、大学四四五名、三年次編入学一名、短期大学部一一七名、計五八三名の入学を許可いたしました。

みなさんは、今から、兵庫大学・兵庫大学短期大学部の学生です。今日という日は、自らの進路をたくましく切り拓くための、成長の第一歩を刻んだ日でもあります。本日、皆さんを新入生としてお迎えできることをとても嬉しく思うと共に、皆さんが兵庫大学で実り豊かな学生生活を築かれることを期待しています。

兵庫大学は、地元からの強い要請を受け、平成七年に設置されました。そこから今日に至るまで、時代のニーズに対応し新たな学部を設置するなど、社会に求められる人材の養成に努めてまいりました。

併設する短期大学の歴史はさらに古く、昭和二十九年に設置された幼稚園教員養成所を前身としています。当時は、戦後の混乱が収まりつつある中で、教育の重要性が強く求められていた時代です。その中で築かれた「人に寄り添う人材を育てる」という一貫した思いは、今も受け継がれています。

現在は、大学院二研究科、大学五学部、短期大学は二学科からなる総合大学として、発展を遂げています。そして、今年、令和七年には大学創立三十周年、短期大学創立七十周年という節目の年を迎えます。私たちがこれまで紡いできた、「学生の夢を叶え地域と共に成長する大学」として、しっかりとした教育を提供し、皆さんには将来、社会で活躍できる確かな力を身につけていただきたいと思います。

さて、このような伝統の中で、本学が大切にしているのが、建学の精神です。

建学の精神とは、大学を設立する際、どのような目的で大学を創るのか、そして、どのような学校にしたいのかという思いを明示したものです。

本学の建学の精神は、聖徳太子の「十七条憲法」第一条の「和を以て貴しと為す」に示された「和」です。そこでは、自分の心を大切にしながら、他者の心も大切にし、その思いを受け入れることが説かれています。一言で表現すれば、「互いを尊び互いを活かす」ということです。

本学では皆さんが「和」の精神を身につけるために、「感謝」「寛容」「互譲」の心を育ててほしいと考えています。生かされていることに感謝をすること。他者に心を寄せ相互に認め合い大切にしようこと。互いに譲り合い助け合うこと。こうしたことが自然にできる、「感謝」「寛容」「互譲」の心を身につけた人へと成長してほしいと願っています。

また、皆さんはこれから、それぞれの学科で専門的な知識や技術をしっかりと身につけ、社会で活躍する準備を始めることになります。本学では、「和」の精神を身につけ、高度な技能を併せもった人材を育てることを社会に約束する言葉として、人材育成の方針「ありがとうのプロフェッショナルへ。」というタグラインを掲げています。皆さんには、高度な知識やスキルに加え、心の優しい、人の心の痛みに寄り添える、そして優しさの中にも芯を持った人、強さだけではなくしなやかさを備えた人に育ててほしい。そう願っています。

今日、新しい学生生活がスタートします。勉強はもちろん、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に参加し、仲間と共に努力し、支えあい、分かち合う経験をたくさんしていただきたいと思います。学生生活は楽しいこと、苦しいこと、様々なことがあるでしょう。それらは全て、皆さんの人生の根っことなり、やがて大きな大輪の花になっていくものと信じています。

皆さんが学生生活を送られる間にも、社会はめまぐるしく変化していきます。どのような時代であっても、学ぶ姿勢を持ち続け、世の中の動きを敏感に感じ取り、色々な事柄にチャレンジして大きく成長してください。みなさんが、こころ豊かな、充実した学生生活を送られることを心より念じまして、式辞といたします。

令和七年四月三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真